



アサーティブネストレーナーへの

道

vol.6



アサーティブジャパンは、アサーティブネスを広く人々に知っていただく活動の一環として、「アサーティブネスの伝え手（トレーナー）を育成する」という大きなミッションを持っています。これまでアサーティブジャパンのトレーナー養成講座を修了された方々は、北海道から沖縄まで全国各地のそれぞれの現場でアサーティブネスを伝える活動を展開しています。

今回の「トレーナーへの道」では、京都府亀岡市在住のトレーナー、吉川智美さんの活動をご紹介します。企業のCSR推進部に在籍しながら、生き方、仕事の両面からアサーティブネスを実践している吉川さん。企業の中でアサーティブであることの難しさや、社会状況とのギャップの中、どんなことに苦勞し、またどんなことを大切にしながら日々を過ごしてきたのか、アサーティブネスへの思いを語っていただきました。

アサーティブネスとわたしの夢

アサーティブジャパントレーナー会員 吉川智美さん（京都府亀岡市）



プロフィール：2001年大阪・トレーナー養成講座修了。横浜生まれ 栃木県育ち。京都府亀岡市に在住。5年の間にカラ・パタール（約5500m）からエベレストに再会するためにピリズブートキャンプでトレーニング中。

平成元年、会社員デビュー。工場勤務（栃木）、支社（東京）勤務、労働組合の役員（大阪）を経て2004年11月よりCSR推進室へ異動。（CSR：企業の社会的責任）一人ひとりの従業員がCSRをよく理解し、自ら進んで実践することの支援をしています。

社会にでたら「ナニカオカシイ！」がいっぱい！

「職場の花として活躍して欲しい」と新入社員として着任した日に上司から言われました。

あのころのわたしは「人から言われることは、素直に聞く」ことが大事だと思いこんでいましたので、忠実に実践しようと職場ではいつもにこにこ。たばこの灰皿（当事は職場で喫煙可能でした！）の片づけやお茶くみなど率先してやっていました。

2年たって後輩ができました。彼はにこにこする

ことはありませんでしたが2年後にわたしの上司（係長）になりました。上司は「彼は22時以降も働けるんだから」とわたしに言いました。そうです。女性は22時以降、勤務してはいけないという法律がありました。だけど突発的なことがあればわたしだって22時以降も「闇」勤務をするし、何より上司の指示どおり「職場の花」に徹してきたのに！
悔しい気持ちでいっぱいになりました。

学生時代は男女の差を感じたことはありませんでしたが、「女性で総合職」の先輩は数えるほど。同期も8割は男性。この差は一体なんでしょう。